

令和3年度 第2回 大阪府立茨田高等学校 学校運営協議会 (議事録)

令和3年11月4日(木) 15:30～

大阪府立茨田高等学校 会議室

出席者(敬称略): 藤原・山下・松井・西本(本校)

川村・早坂・寺野・渡邊・綿世・中出(協議委員)

記録: 西本

1. 挨拶(校長)

2. 茨田高校より

* 来年度の学校経営計画と本年度の進捗状況について

令和4年度(来年度)の学校経営計画について

めざす学校像3点の具体的取組に力を入れていく。(コミュニケーション能力向上の特色を何かの形で引き継げればと考えている)

再編整備の対象となり、学校広報は来年度以降なくなることになる。学校広報としてではなく、生徒の成長を発信する位置づけで中学校訪問などを実施する。今後は、在校生の満足度を上げていくことを重点におき、生徒の自己肯定感を持たせられるような学校活動と、地域に恩返しできる(貢献できる)活動を進めていきたい。

学力向上については、生徒一人一台端末の導入が完了。教員全員に生徒端末と同型の端末を導入できている。利用に関する教員研修等も実施している。ICTの利用がすなわち学力の向上につながるというものでは必ずしもないと考えているので、引き続き興味を持たせるような授業づくりを進めてもらう。

茨田高校のコミュニケーションの取組みを改めて検証等を行いながら明確にしていくことが必要だと考えている。

令和3年度(今年度)の進捗状況について

* 授業アンケート結果について

数値は下がっている傾向にあるが、水準としては非常に高いものである。今年度は、一人一台端末の活用も含めて、2回目の授業アンケートでの数値向上を期待している。

生徒理解に関する設問については、特に向上をめざしていく。

* 進路状況の報告

例年通り就職希望者が67%と多い傾向である。そんな中、新型コロナウイルスの関係で、応募前職場見学が満足にできなかった。オンライン見学も数件あった。指定校求人を中心に1次合格率は65%を超えた。以前からつながりのある企業、物流業界、こ

れまで求人がとまっていた販売業界にも応募・合格が出ている。卒業生の頑張りが評価されて合格をいただけた企業もあった。

45期生は、欠席が多い生徒が多数いたため、学年をあげて欠席についての意識付けをやっていただいた。

進学については、4大進学は大幅に減となり、専門学校が圧倒的に多い状況。各種学校への進学も増加傾向である。

*教科書採択について

来年度入学生は、新学習指導要領の内容となっている。来年度2・3年生はこれまでの学習指導要領の内容となっている。

<休憩>

3. 協議（テーマ：今後の茨田高校の教育活動について）

（議長）

学校経営計画及び学校評価について、ご意見ご感想を。

（協議委員）

地域連携の推進については今後気になるところ。コロナがあって昨年、今年はなかなか地域活動が止まっている。来年こそは地域の活動を実施し、茨田高校の生徒たちとも交流していきたい。茨田高校の統廃合について生徒はどのような反応なのか。

（校長）

在校生の受け止めとしては、現段階で特段の反応は感じられない。卒業生の反応としては数件学校に問い合わせがあった。

（協議委員）

茨田高校のレガシーを明確に残すために力を入れていくチャンスとしなければならない。具体的に何かやってくれるだろうと期待している。

（協議委員）

卒業生としてショックを受けている様子は見られました。

（協議委員）

卒業生などの茨田高校に対する反応はこれから広まっていくであろう。丁寧に対応できるようにしておく必要があると思います。

（協議委員）

来るべき新型コロナウイルス第6波に向けて、一人一台端末の活用をより深めてい

かなければならないのではないかと。活用法だけでなくリテラシー面の準備も重要になってくる。

(協議委員)

ICTに関しては、アカウントを使うとスマホでアクセスができる。行事の様子を配信するようなこともできた。アカウントの利用に対する保護者のリテラシーにも注意を払わなければならない。

欠席しなければならない生徒に対して、授業の様子を配信状態にすることにも注意すべきところがある。オンラインで実施した授業を「授業」とするかは、今後議論になっていくであろう。

(協議委員)

(茨田高校にということではないが) 教員の中にはリテラシーについて理解が深まっていない教員もいる。

(協議委員)

学校経営計画について、新型コロナウイルスの昨今、「安全安心」に関する記述が少ないように感じる。学校活動、地域交流などさまざまなことに対して「安心安全」に関する取り組みは必要になってくるはずである。そこにも意識を向ける必要があるのではないかと。

(協議委員)

生徒は先生に一生懸命指導していただいて就職が決まり喜んでいて。コロナで様々な制限されている学校生活に対して、なかなか「楽しい」とは思っていない様子だ。

(協議委員)

地域活動をやっていく上で、コロナ関係の対策も検討しながら防災訓練等を実施する方針。

(協議委員)

新学習指導要領に関する成績評価について。授業をする上で重要になるのが、指導案づくりをしっかりとやっていくことが必要なことになる。どの活動で何をどのような基準で評価するのか。授業をやりながら評価をしていく。考査に関しても観点を明確にして作成していかなければならない。説明責任が重要となってくる。評価材料が必須である。中学校では、指導案づくりを徹底している。慣れてくれば指導案づくりも負担ではなくなっていくだろう。

(協議委員)

経験値の浅い教員に対しては、しっかりとした研修体制を構築する必要があるのではないか。

(協議委員)

ICT と SDG's に関する取り組みをぜひ進めていただきたい。

授業アンケートについて、折れ線グラフは少し引きで俯瞰すれば高い水準で横ばいである。授業アンケート結果はどのように活用されているのか、何のために授業アンケートをしているのかを分かりやすくするべきではないか。また、質問内容が、具体的に何を指しているのかわからない。誰にどのようにフィードバックするのか、評価が低い部分について、教員間で共有しながら検討していくことも必要ではないか。標準偏差等も算出しながら分析することもできる。そこが重要ではないか。各数値は高い水準で安定しているため数値の上下を表す必要性は低く、結果に対する細やかな分析とフィードバックを丁寧にする必要がある。

(協議委員)

授業アンケートに関する結果の考察はぜひしてほしい。進路状況に関しては、未定の生徒が非常に少ないことには驚いた。

(議長)

教科書については、採択と致します。

(議長)

学校環境に関する指摘について、学校としてなにかあるか。

(校長)

今後11月以降に多く予定している。

(協議委員)

学校の統廃合は、ひとつのチャンスにしていってほしい。具体的な取り組みを立ち上げて要望をあげていてほしい。

4. 謝辞